

25
エレミヤ書
聖徒伝 246

私自身の内なる 偶像からの解放を

エレミヤ書 25章

神の裁きの器・バビロニア

アウトライン

0. イントロダクション

I. 裁きの器・バビロニア 1～14

II. 国々への裁き 15～29

III. 主の日の裁き 30～37

III. まとめと適用

私自身の内なる偶像からの解放を



イシュタル門

預言者たちの告げたこと

人の視点からだと、混沌として見えるが…



預言者たちの告げたこと



南北時代



① 直近の
苦難

メシア初臨



② 主の日
大患難時代

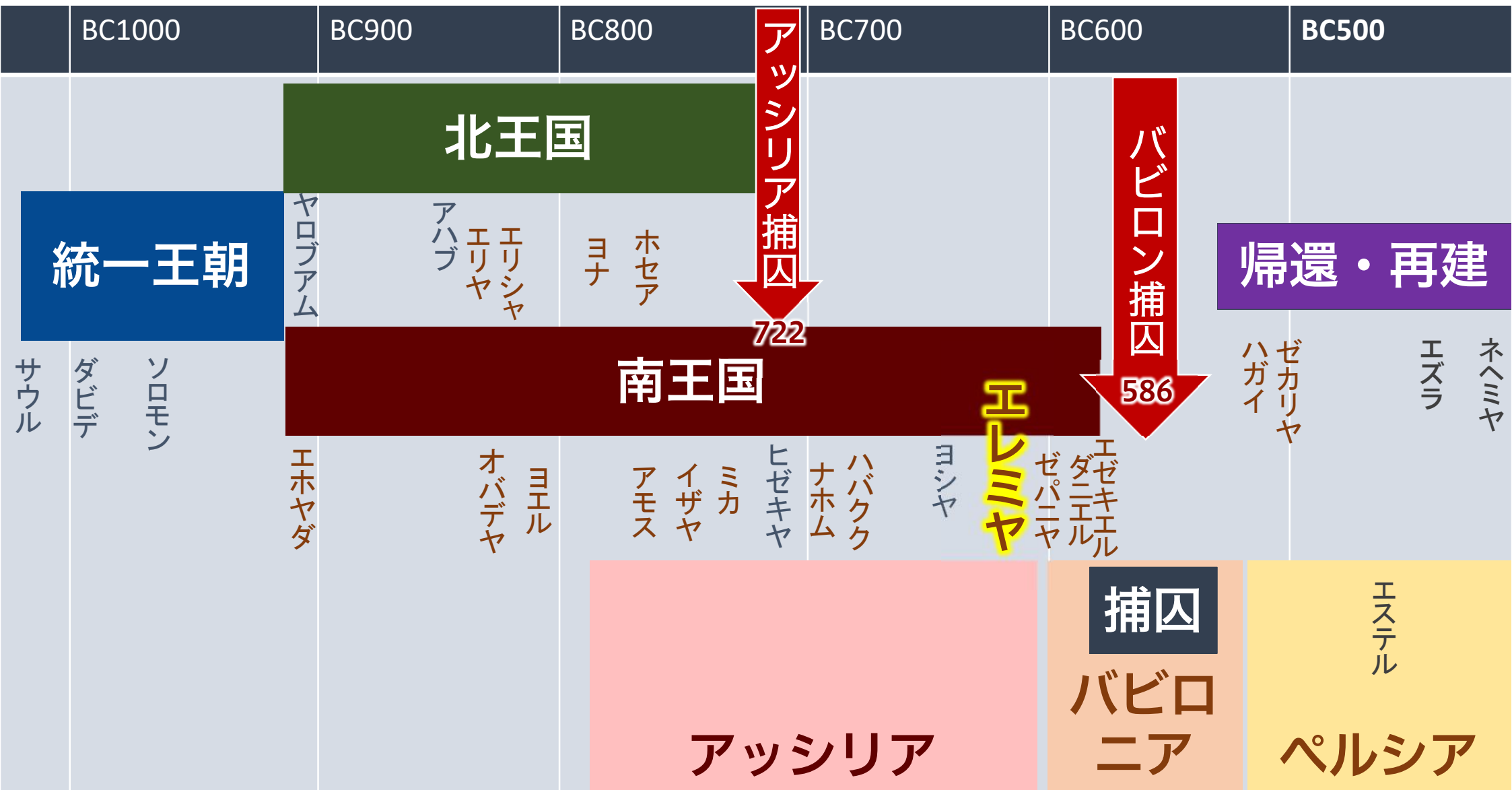


③ 回復
メシア再臨



0. イントロダクション

イスラエル王国史



北王国

南王国ユダ

アッシリア捕囚

BC722年

預言者の空白 暗黒時代

マナセ 

ヒゼキヤ ♡

29年

イザヤ

三カ

55年

エレミヤ(召命前)

エレミヤ 45年

45年

アモン 
2年

ヨシヤ ♡

31年

ハバクク

ゼパニヤ

即位前

ネブカドネツアル王

捕囚 1

捕囚 2

バビロン捕囚③

11年

エホヤキム 

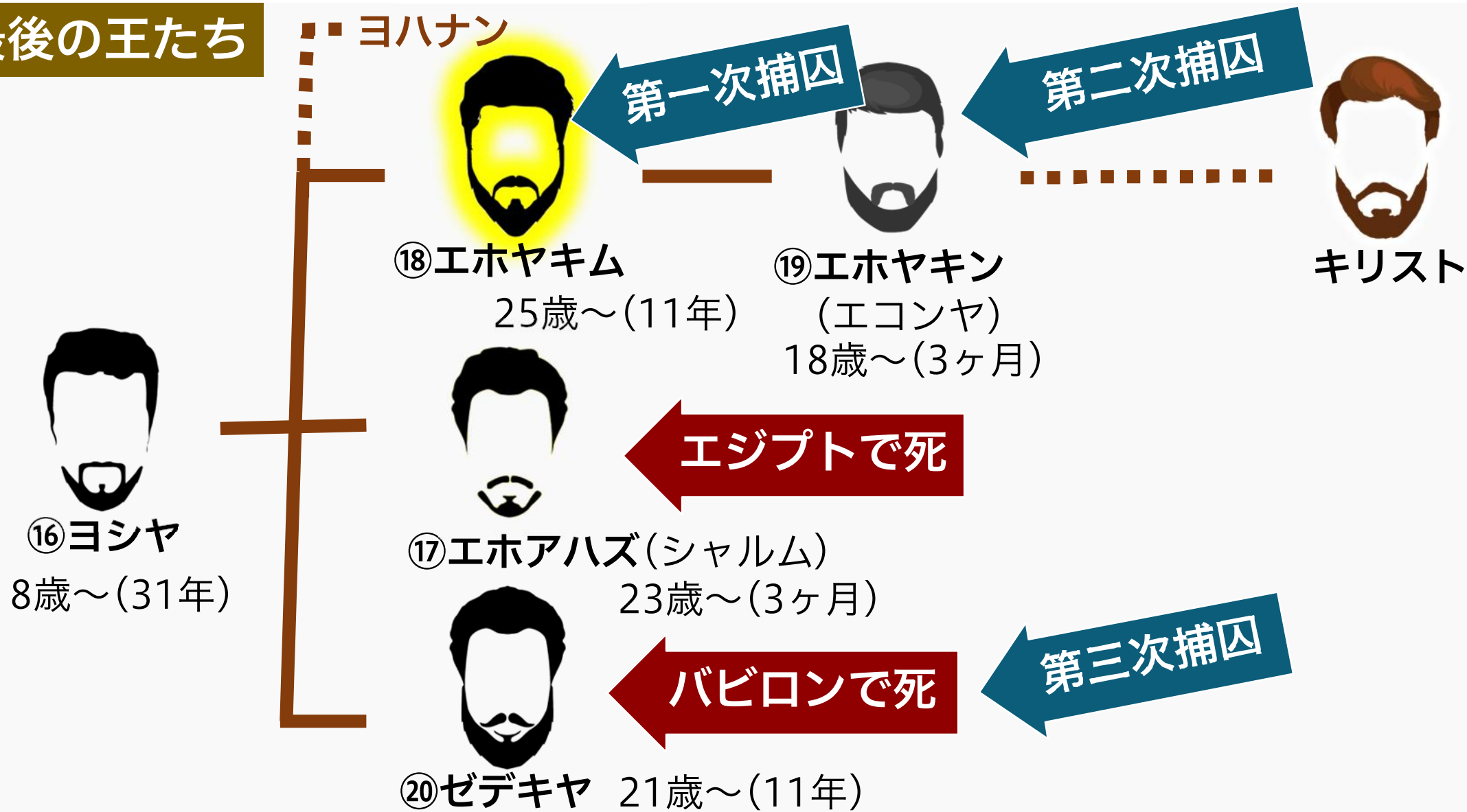
3ヶ月
アハズ

3ヶ月
エホヤ

ゼデキヤ 

11年

最後の王たち



ネブカドネツアル王

■ 新バビロニア帝国の二代目の王。
バビロンを再建。壮大な都市に。

■ BC605、37歳で即位 アッシリアを壊滅
イスラエル、シリアへ侵攻開始

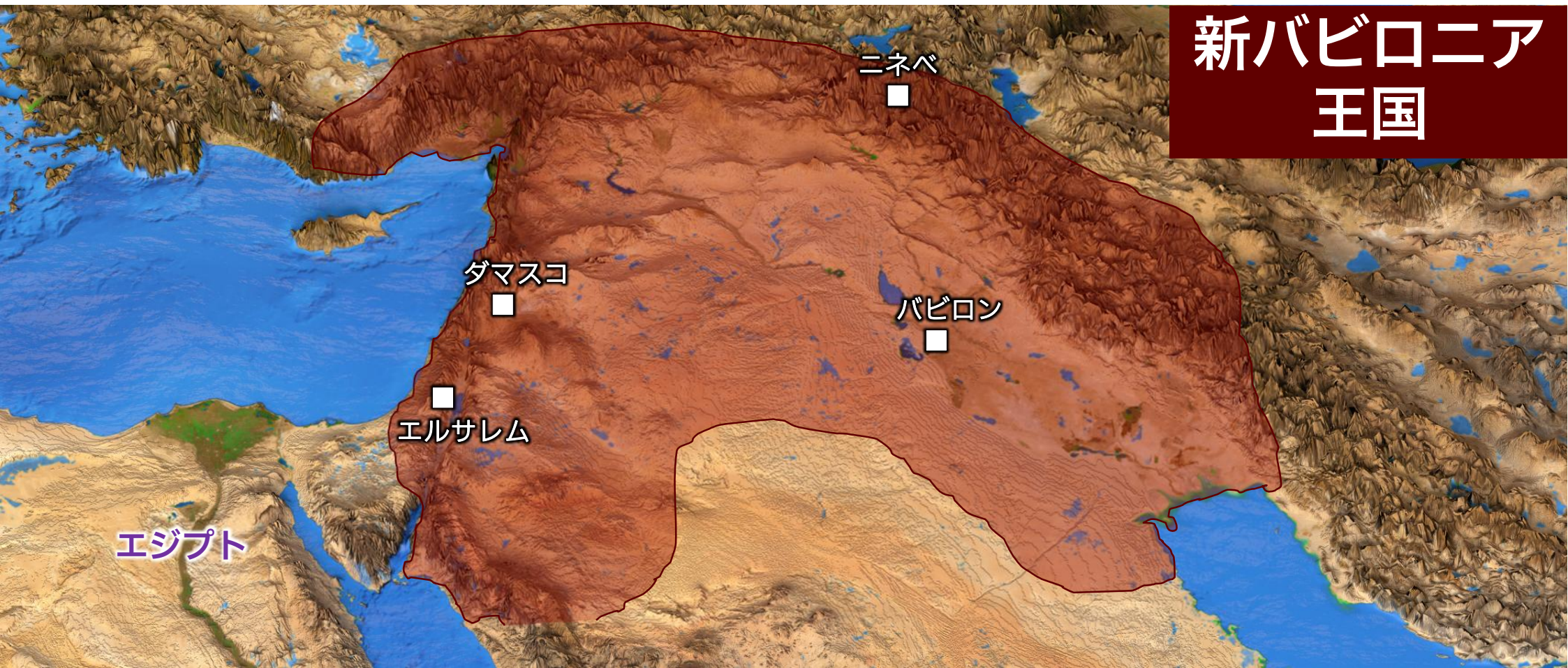
BC597 45歳 エルサレムを占領、ユダを属国化

BC586 55歳 エルサレム陥落 神殿を破壊

BC562、80歳で死去



新バビロニア 王国



■ネブカドネツアル王は、アッシリアを滅ぼし、エジプトと激しく争い、退けて、シリア、イスラエル地方までを征服。



I. 裁きの器・バビロニア

エレミヤ書25章1～14節

イシュタル門(ベルリン)

御告げ

迫る侵略 エレ25:1

ユダの王、ヨシヤの子エホヤキムの第四年、
バビロンの王ネブカドネツアルの元年*に、ユ
ダの民全体についてエレミヤにあったみことば。

＊BC605 アッシリアの残党は壊滅

イスラエルへの侵攻も開始

■バビロニアの脅威を眼前にしての御告げ



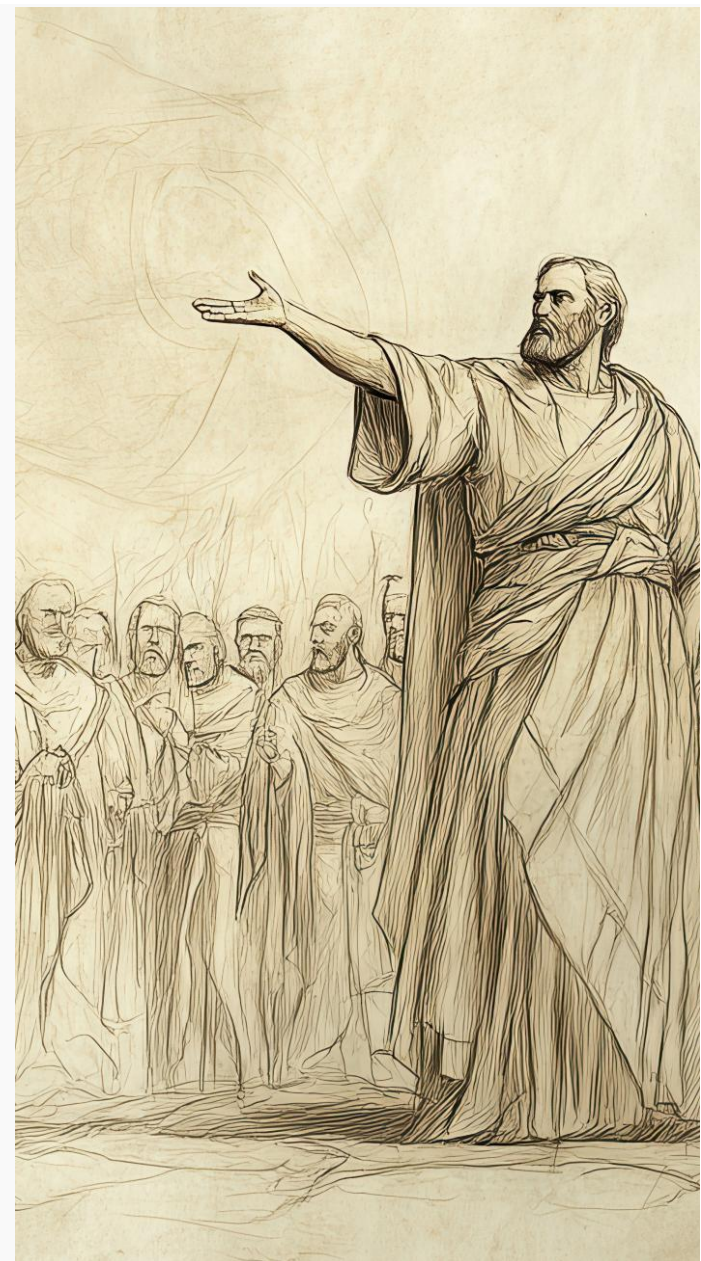
御告げ

民の頑なさ エレ25:2～3

預言者エレミヤは、それをユダの民全体とエルサレムの全住民に語り、こう言った。

「ユダの王、アモンの子ヨシヤの第十三年から今日まで、この二十三年間、私に【主】のことばがあり、私はあなたがたに絶えず、しきりに語りかけたのに、あなたがたは聞かなかった。

■ 律法回帰の宗教改革のヨシヤ王の時代すら、エレミヤの警告に耳を傾ける者はいなかった。

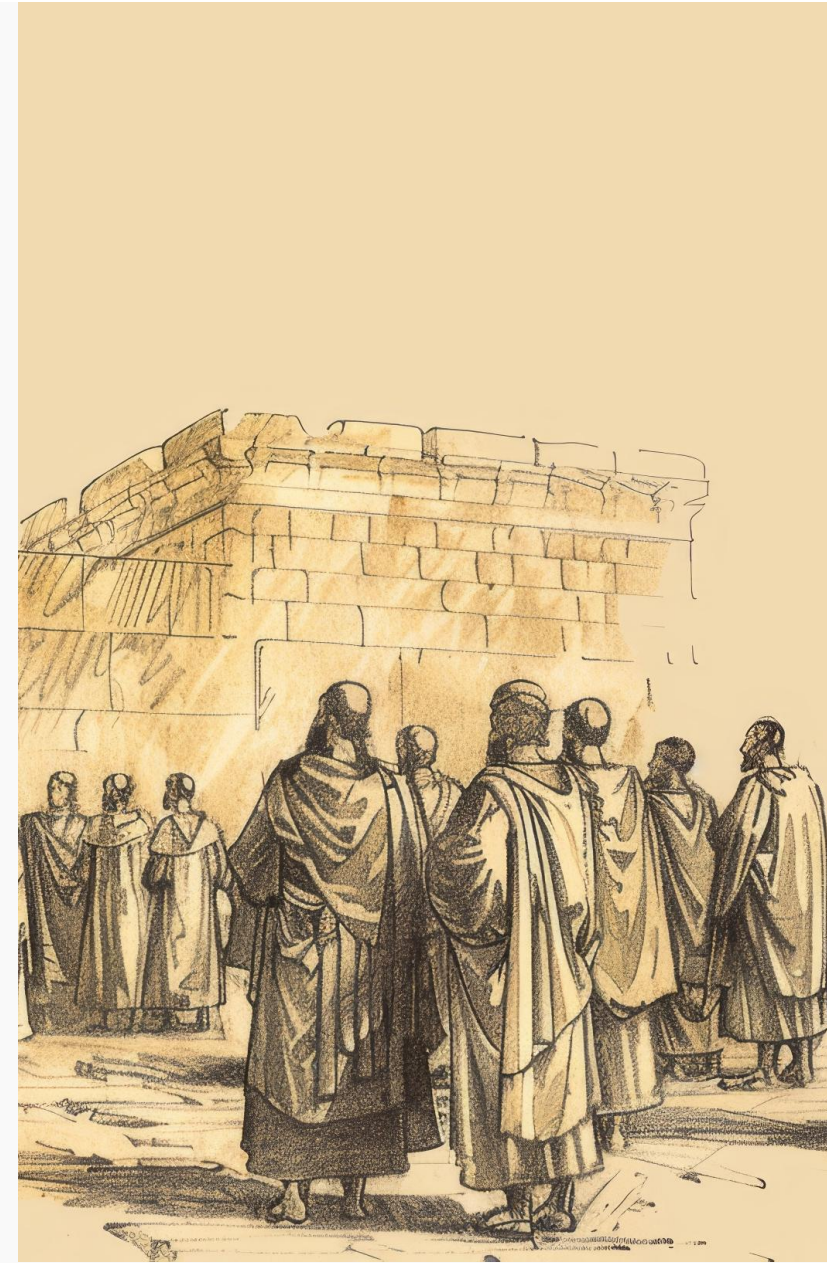


御告げ

預言者たち エレ25:4

また、【主】はあなたがたに、主のしもべである**預言者たち**を早くからたびたび遣わされたのに、あなたがたは聞かず、聞こうと耳を傾けもしなかった。

- エリヤ、エリシャ、ヨエル、オバデヤ、ヨナ、アモス、ホセア、ミカ、イザヤ…、
➡ 有名無名の数多くの**預言者たち**が、数百年も警告を発し続けたが…。



御告げ

悔い改めの促し エレ25:5～6

主は言われた。『さあ、それぞれ悪の道から、あなたがたの悪い行いから立ち返り、【主】があなたがたと先祖たちに与えた土地に、いつまでも、とこしえに住め。

ほかの神々に従い、それに仕え、それを拝んではない。あなたがたが手で造った物によって、わたしの怒りを引き起こしてはならない。そのようにすれば、わたしも、あなたがたにわざわいを下さない。』

■ イスラエルの最悪の罪が、偶像礼拝



ユダの荒野

御告げ 自ら招いたわざわい エレ25:7

しかし、あなたがたはわたしに聞き従わなかった——【主】のことば——。そして、あなたがたは手で造った物でわたしの怒りを引き起こし、身にわざわいを招いた。』

■ 自らの偶像礼拝が招いたわざわいは、
間もなくやってくる



御告げ 主の裁きの器 エレ25:8～9

それゆえ、万軍の【主】はこう言われる。

『あなたがたがわたしのことばに聞き従わなかったから、見よ、わたしは北のすべての種族を呼び寄せる——【主】のことば——。わたしのしもべ、バビロンの王ネブカドネツアルを呼び寄せて、この国とその住民、その周りのすべての国々を攻めさせ、これを聖絶して、恐怖のもと、嘲りの的、永遠の廃墟とする。』

■ イスラエルを裁くために、
主が用いられる器が、北の帝国バビロニア。



御告げ

70年の裁き エレ25:10～11

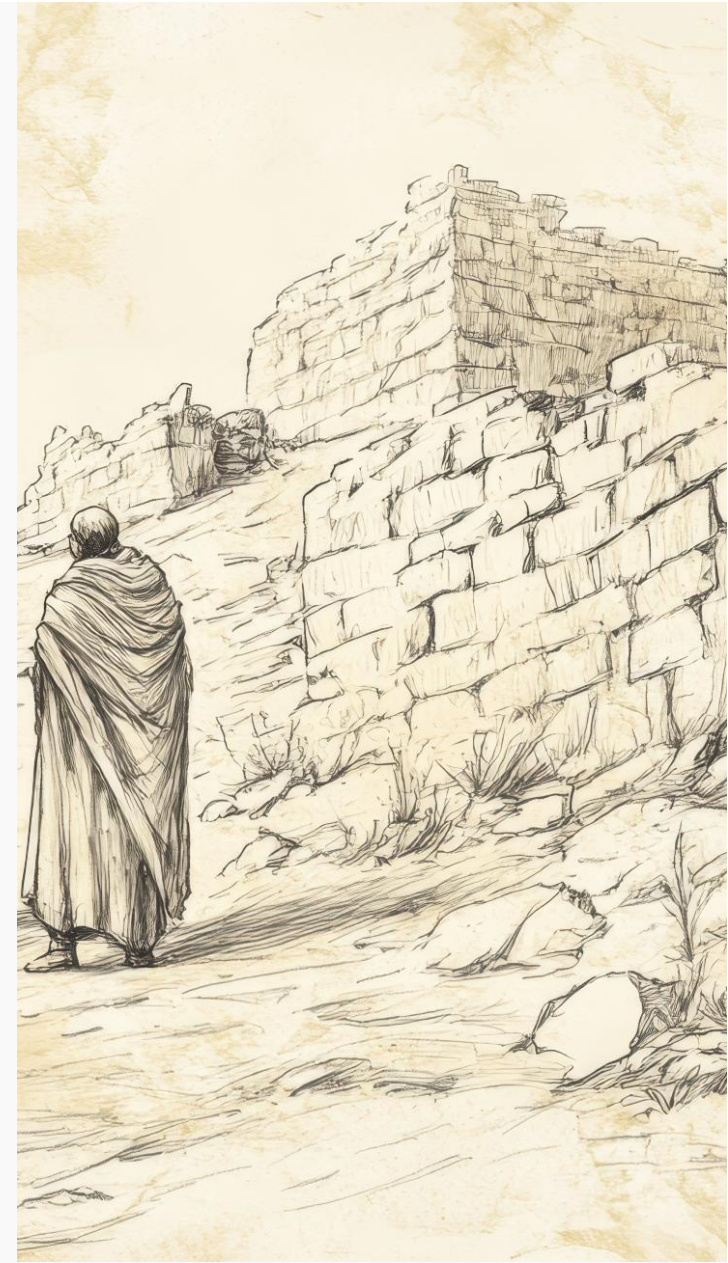
わたしは彼らから楽しみの声と喜びの声、花婿の声と花嫁の声、ひき臼の音と、ともしびの光を消し去る。

この地はすべて廃墟となり荒れ果てて、これらの国々はバビロンの王に**七十年***仕える。

***人の一生に相当(詩90:10,イザヤ23:15)**

■ 荒野の40年の裁きは、世代が変わる期間。

捕囚の70年の裁きは、人の一生に相当。



御告げ

捕囚の終わり エレ25:12

七十年の終わりに、わたしはバビロンの王とその民を——【主】のことば——またカルデア人の地を、彼らの咎のゆえに罰し、これを永遠に荒れ果てた地とする。

＊ダニエルは、ペルシアがバビロンを滅亡後、エレミヤの70年の預言を知った。(ダニ9:2)

■裁きの器バビロニアも、
自らの罪によって、主に厳しく裁かれる。



御告げ

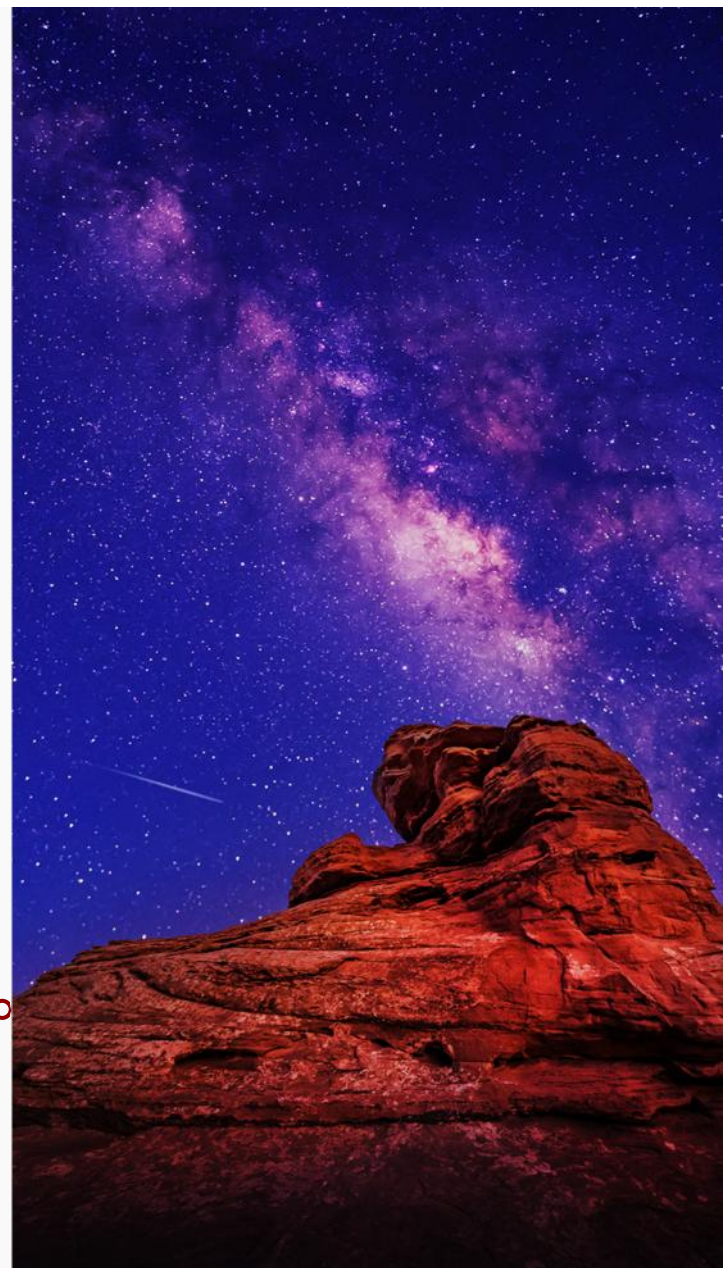
全預言の主 エレ25:13～14

わたしは、この地の上にわたしが語ったすべてのことばを実現させる*。それは、エレミヤが万国について預言したことで、この書に記されているすべての事柄である。

多くの国々と大王たちは彼らを奴隷にして使い、わたしも彼らに、その行いに応じ、その手のわざに応じて報いる。』』

*全ての預言は、主ご自身が完全に成就される。

■ 捕囚後も、イスラエルの苦難は続く。





Ⅱ． 国々への裁き

エレミヤ書25章15～29節

イシュタル門・再現図

御告げ

神の怒りの杯 エレ25:15～16

まことにイスラエルの神、【主】は、私にこう言われた。「この**憤りのぶどう酒の杯***をわたしの手から取り、わたしがあなたを遣わすすべての国々に、これを飲ませよ。

彼らは飲んで、ふらつき、狂ったようになる。わたしが彼らの間に送る剣のゆえである。」

＊罪人に下される神の裁き。神の怒りの杯

「黙 14:10 その者(反キリストの刻印)は、神の怒りの杯に混ぜ物なしに注がれた、**神の憤りのぶどう酒**を飲み、聖なる御使いたちと子羊の前で火と硫黄によって苦しめられる。」



御告げ エルサレムへの裁き エレ25:17~18

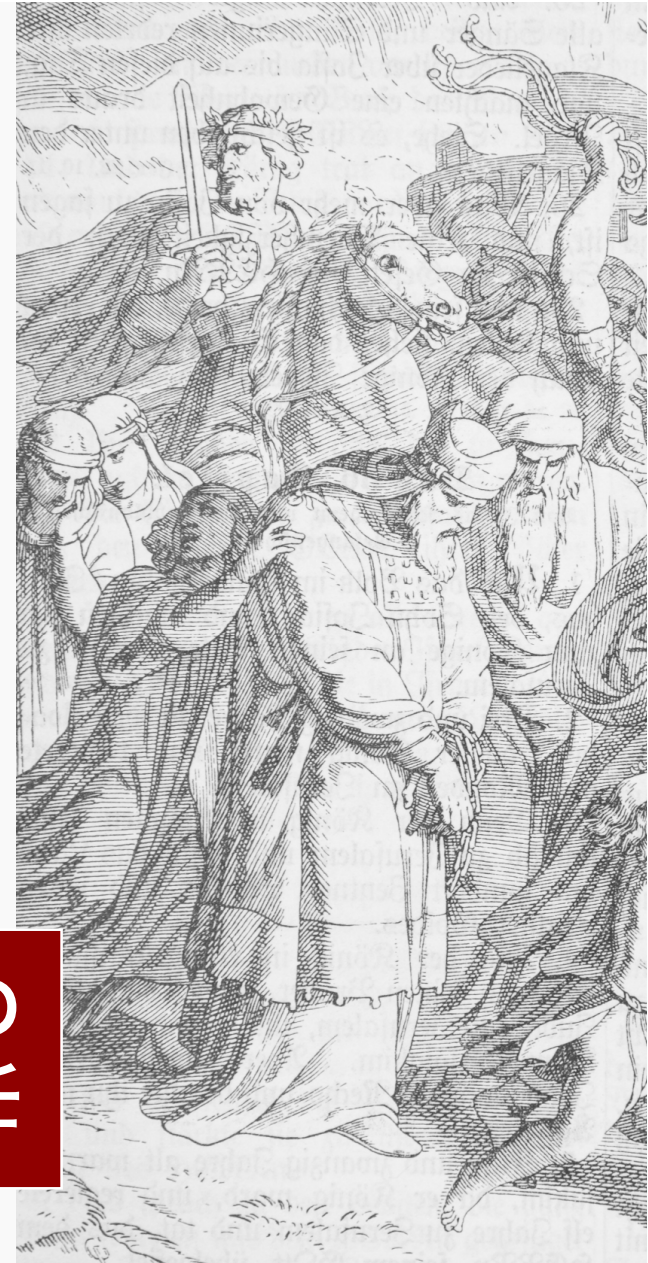
そこで、私は【主】の御手からその杯を受け取り、【主】が私を遣わされたすべての国々の民に飲ませた。

まず、エルサレムとユダの町々とその王たち、高官たちに。彼らを今日のように廃墟とし、恐怖のもと、嘲りとののしりの的とするためである。

■ すべての国々の民への神の裁き

→ 筆頭は、神の民イスラエル
その都エルサレム

神の民への
恵みと責任



御告げ

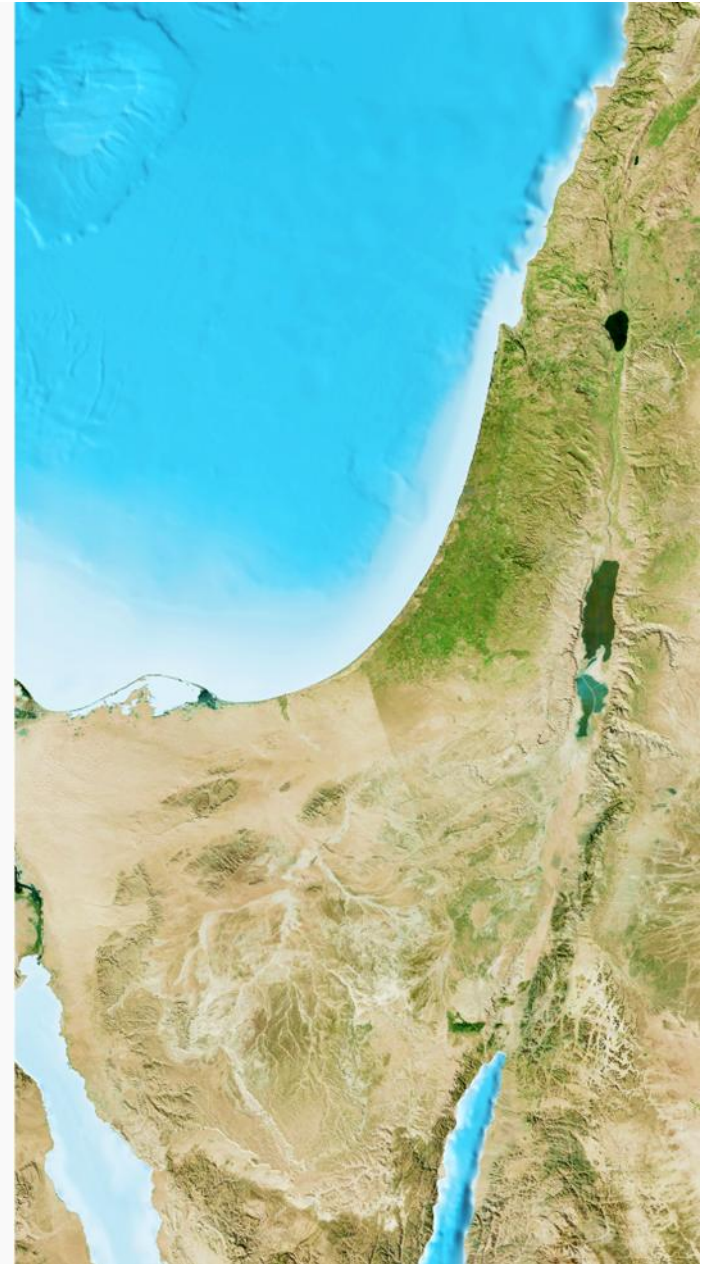
裁かれる国々① エレ25:19～21

また、エジプトの王ファラオと、その家来たち、首長たち、そのすべての民、すべての混血の民、ウツの地のすべての王たち、ペリシテ人の地のすべての王たち、すなわちアシュケロン、ガザ、エクロン、アシュドデの残りの者たち、エドム、モアブ、アンモン人、

■ 列挙されるのは、

バビロニアに滅ぼされる国々。

➡ 南のエジプトから、イスラエル周辺…



御告げ 裁かれる国々② エレ25:22～25

ツロのすべての王たち、シドンのすべての王たち、海のかなたにある島の王たち、デダン、テマ、ブズ、もみ上げを刈り上げているすべての者たち、アラビアのすべての王たち、荒野に住む混血の民のすべての王たち、ジムリのすべての王たち、エラムのすべての王たち、メディアのすべての王たち、

➡イスラエルの北、東、西の国々

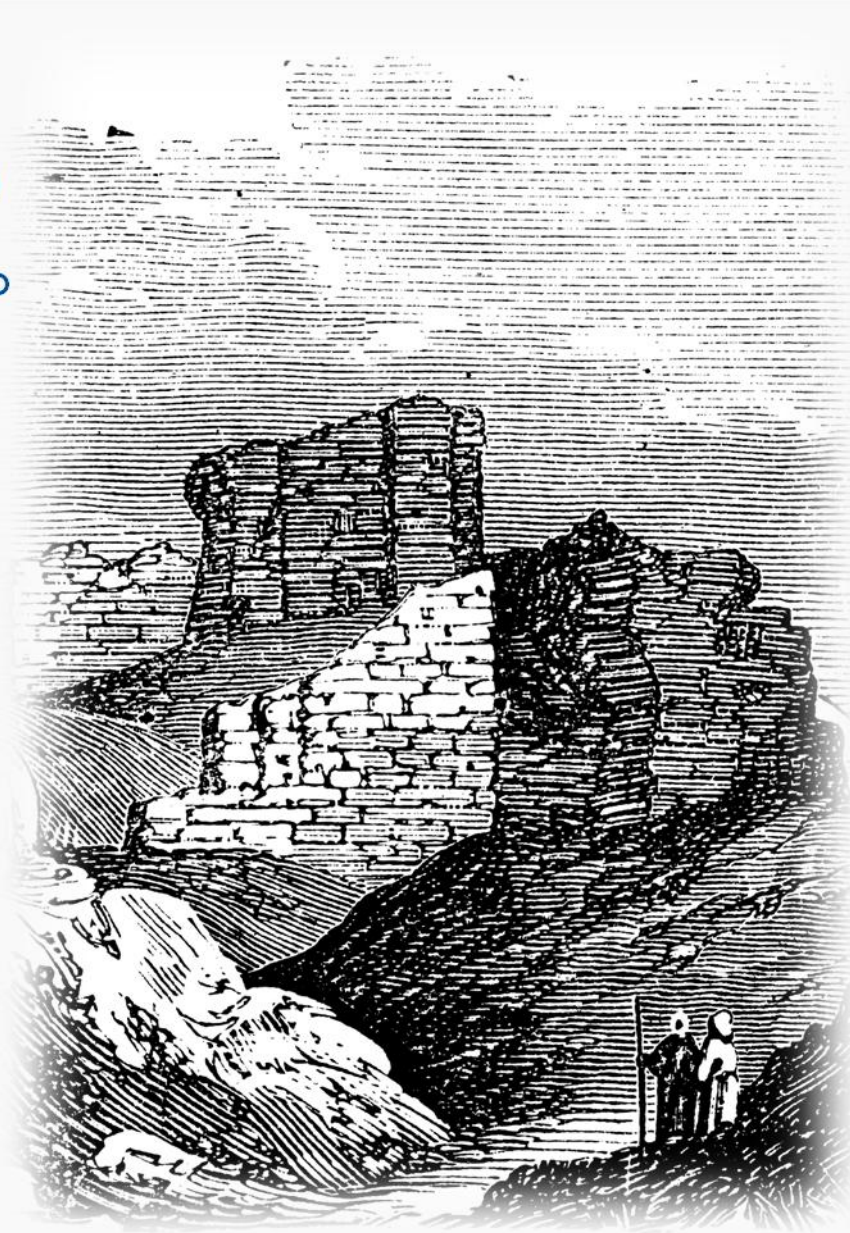


御告げ

バビロンの裁き エレ25:26

北国のすべての王たち、近い者も遠い者も
一人ひとり、地の面のすべての王国である。
そして、彼らの後で**バビロン**の王が飲む。

■これらの国々を滅ぼしたバビロンが、
最後に、神の怒りの杯を飲む。



御告げ

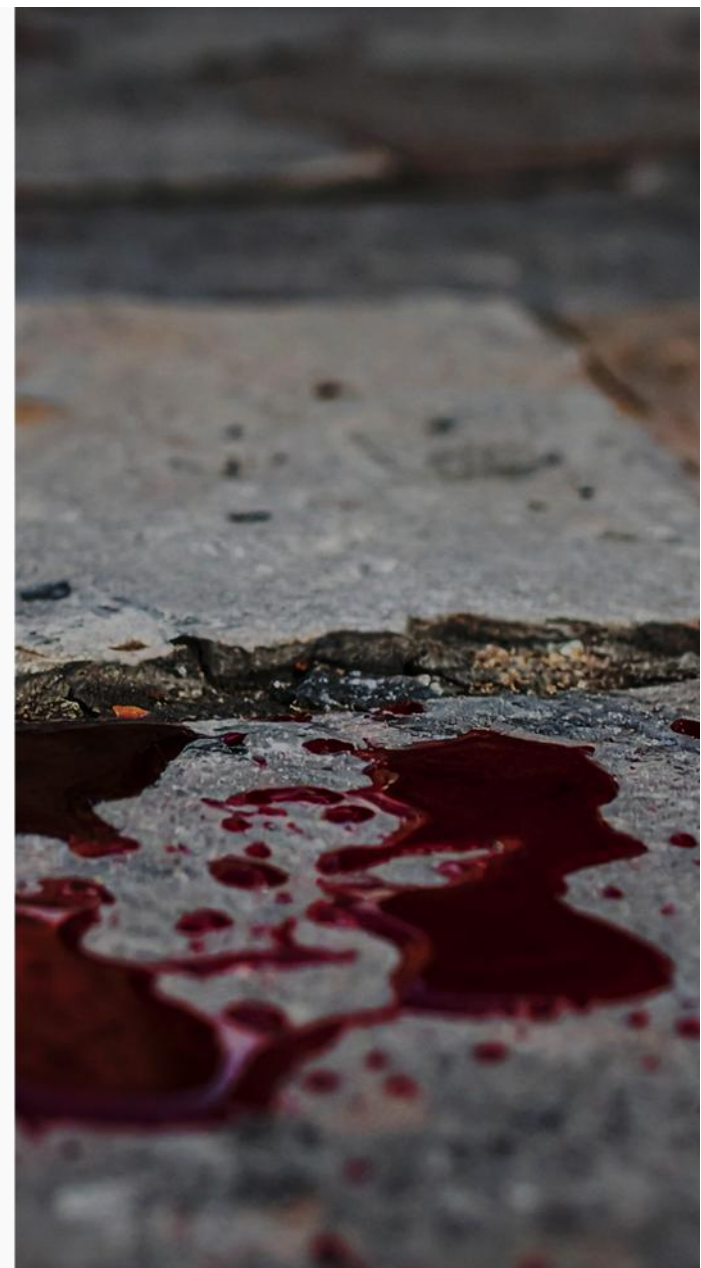
ユダへの宣告 エレ25:27～28

「あなたは彼ら*に言え。『イスラエルの神、万軍の【主】はこう言われる。わたしがあなたがたの間に送る剣のゆえに、飲め、酔え、吐け。倒れて起き上がるな。』

もし、彼ら*が、あなたの手からその杯を取って飲むことを拒むなら、彼ら*に言え。『万軍の【主】はこう言われる。あなたがたは必ず飲むことになる。』

＊宣告の対象は、再びイスラエル(ユダ)へ

➡避けられない裁きが来る



御告げ

都への裁き エレ25:29

見よ。わたしの名がつけられているこの都*に
対して、わたしはわざわいを下し始めているか
らだ。あなたがたは罰を免れようとするのか。
免れることはできない。わたしがこの地の全住
民の上に、剣を呼び寄せているからだ——万軍
の【主】のことば。』

*エル・サレム＝神の平和

■最終的に、都は壊滅。神殿は完全破壊。



神の裁きは、イスラエルに始まり、イスラエルに終わる



Ⅲ. 主の日の裁き

エレミヤ書25章30～37節

ユダの荒野・ネゲブ

御告げ

裁き主の叫び エレ25:30～31

あなたは彼らにこのすべてのことばを預言して言え。『【主】は高い所からほえ、聖なる御住まいから声をあげられる。その牧場に向かって猛々しくほえ、ぶどう踏みをする者のように、地の全住民に向かって叫び声をあげられる。

その叫び声は地の果てまでも響き渡る。

【主】が諸国の民と争い、すべての肉なる者をさばき、悪者どもを剣に渡されるからだ。——

【主】のことば——

■ここでの御告げは、世の終わりの主の裁き



御告げ

主の日の裁き エレ25:32～33

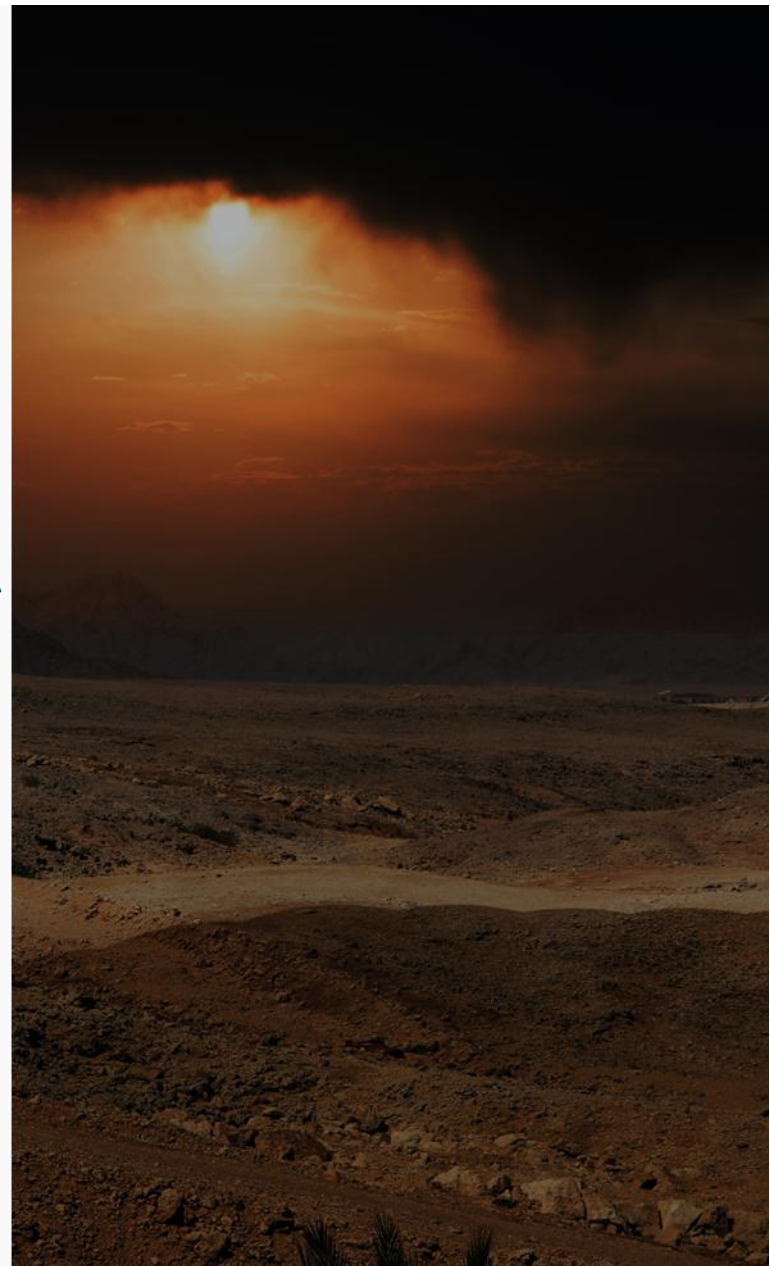
万軍の【主】はこう言われる。見よ。わざわざいが国から国へと移り行き、大いなる暴風が地の果てから起こる。

その日*、【主】に殺される者が地の果てから地の果てまでに*及び、彼らは悼み悲しまれることなく、集められることなく、葬られることもなく、地の面の肥やしとなる。』」

*主の日、世の終わりの神の裁き、大艱難

*全世界に及ぶ裁き

…地の四隅の押さえが喪失(黙示録7:1)



御告げ

下される主の裁き エレ25:34

牧者たち*よ、泣き叫べ。群れの飼い主たち*よ、灰の中を転げ回れ*。あなたがたが屠られ、散らされる日が来たからだ。あなたがたは、尊い器が碎かれるように倒れる。

*国々の統治者、権力者たち

*灰を浴びるのは悔い改めのしるしだが…

➡回心も聞き届けられず、苦しむ状態



御告げ 消えた逃れ場 エレ25:35～36

逃げ場*は牧者たちのうちから消え失せる。逃れ場は、群れの飼い主たちのうちから。

牧者たちの叫ぶ声ができる。群れの飼い主たちの泣き声。【主】が彼らの牧場を荒らしておられるからだ。

*律法は、逃れの町を指定していたが…

主の日の裁きに、逃れる場など存在しない



御告げ 荒廃 エレ25:37～38

平和な牧場も、【主】の燃える怒りによって荒れすたれる。

主は若獅子のように仮庵*を捨てた。虐げる者の怒り、主の燃える怒りによって、彼らの国が荒れ果てるからだ。

＊祭りの仮庵とは別な語。

“(若獅子の)巢・住みか”…口語訳、新共同訳





Ⅲ. まとめと適用

私自身の内なる偶像からの解放を

バビロン・浮彫

裁きの器 バビロニア

- イスラエルの偶像礼拝の罪を裁く主の器が、バビロニア
- 諸国も、バビロニアを通して神の裁きを受ける
- バビロニアも、最後に神の厳しい裁きを受ける

裁きの器として用いられる者には、重責がある

イスラエルへの使命

「あなたは、あなたの土地、あなたの親族、あなたの父の家を離れて、わたしが示す地へ行きなさい。

そうすれば、わたしはあなたを大いなる国民とし、あなたを祝福し、あなたの名を大いなるものとする。**あなたは祝福となりなさい。**創世記12:1～2」

■ 住み慣れたウルの町を離れ、未知の土地へ旅立ったアブラハム

■ **イスラエルの使命は、諸国への祝福となること。**

➡ 困難な地で、主に聞き従い、主を証しすることによって。

イスラエルへの責任

- 主に従い、主を証し、諸国への祝福となるべきが…、偶像礼拝に陥り、異邦人に躓きを与えた。
- 再三の警告にも関わらず、悔い改めにいたらなかった。
- 神の怒りの杯は、まずイスラエルに下り、諸国に下り、最後に再び、イスラエルに下る。

偶像礼拝の罪に対する裁きが、バビロン捕囚

イスラエルの究極の罪と裁き

- 約束されたメシアをイスラエルは拒絶
 - ➡ 裁きの結果が、エルサレムの完全な破壊と離散
- 裁きのため、不信仰のまま帰還
- 世の終わりに、最終的な裁き・大艱難時代が!!
 - ➡ 大災厄と大迫害を経て、残された者が民族的回心へ

イスラエルへの究極的な裁きが、主の日・大艱難時代

改めて偶像礼拝の本質を考える

■ 偶像とは、人間の欲望の具現化。

➡ 究極の偶像礼拝は、自分を神とすること
好き嫌いが動機の者は、偶像礼拝者と大差なし。

■ 自分の感情や好き嫌いで、信仰生活を判断してないか？

➡ 何を基準に地域教会や奉仕や宣教を判断してる？
自分の居心地、虚栄心が中心になってないか？

自分のお心が御心にすりかわるのは、偶像礼拝

引き返せない、信仰者の献身の道

- アブラハム以降、前進し続けてきた、主のご計画
- 主に従い、奴隷から解放、神の民となったイスラエルにエジプト(偶像礼拝)に戻る選択肢はない。
- バビロン捕囚、ローマによる陥落、ホロコースト…、幾多の苦難を経ても、イスラエルはイスラエルをやめられない!!

主を仰ぎ見、栄光のゴールへ向かって進んで行くだけ

遣わされた聖徒たち

- アブラハムはカナンへ。ヤコブはハランへ。
ヨセフはエジプトへ。イスラエルは荒野を経て再びカナンへ。
ダビデは荒野に逃れ、エリヤは異邦人の地と荒野へ。
エルサレムは、バビロンへ。エレミヤはエジプトへ。
- 主イエスは、ベツレヘム、エジプト、ガリラヤ、
異邦人を地を巡り、エルサレムで受難に。
- 弟子たちは、エルサレムから、サマリア、小アジア、
ギリシャ、そして世界中に遣わされて行った。

慣れ親しんだ地を離れ、遣わされていくのが、信仰者

主イエスに従う、ということ

■ヨハネ福音書21:18～19

「まことに、まことに、あなたに言います。あなたは若いときには、自分で帯をして、自分の望むところを歩きました。しかし年をとると、あなたは両手を伸ばし、ほかの人があなたに帯をして、**望まないところに連れて行きます。**」

イエスは、ペテロがどのような死に方で神の栄光を現すかを示すために、こう言われたのである。こう話してから、ペテロに言われた。**「わたしに従いなさい。」**

「行きなさい」という 主の命令

「ですから、あなたがたは**行**って、あらゆる国の人々を弟子と
しなさい。父、子、聖霊の名において彼らにバプテスマを授け、
わたしがあなたがたに命じておいた、すべてのことを守るよう
に教えなさい。見よ。わたしは世の終わりまで、いつもあなた
がたとともにいます。マタイ28:19～20」

■小さく閉ざされた、感情と好き嫌いだけの自分の世界。

籠もっていれば、偶像礼拝の罪に陥っていくだけ。

古い死んだ自分を捨て、新しい命を主の使命に生きよう

★ 私自身の内なる偶像からの解放を ★

- イスラエルの罪の最大の原因は、使命を見失ったこと。
諸国民への祝福を忘れ、閉じ籠もった末の偶像礼拝。
- 居心地のよさや好き嫌い、自分中心は偶像礼拝と同じ。
主に従うことを身をもって知る人は、幸いだ。
福音を信じた時、古い自分は死んだ。
だから、行って、主に与えられた新しい命を生きよう。

主イエスの使命で 自分自身を染め上げていこう

てん　　とう　　わたし　　つみ
「天のお父さま。私たちの罪をゆるしてください。

わたし　　かみ　　みこ　　しゅ
私たちは、神の御子、主イエス・キリストが、

わたし　　つみ　　あがな　　じゅうじか　　し
①私たちの罪を贖うために十字架で死なれ、

はか　　ほうむ
②墓に葬られ、

みっかめ　　ふっかつ　　しん
③三日目に復活されたこと、を信じます。

ふる　　じぶん　　し　　あた　　いのち　　い　　もの
古い自分は死んで、新しい命に生きる者とされました。

わたし　　い　　ふくいん　　の　　つた
私たちは、行って、福音を宣べ伝えます。

しゅ　　やくそく　　しんらい　　しゅ　　あた　　しめい　　つか
主の約束に信頼し、主に与えられた使命に遣わされます。

しゅ　　まね　　い　　とき　　しゅ　　したが　　つか
主に招き入れられるその時まで、主に従い、仕えます。マラナタ。

しゅ　　な　　いの
主イエス・キリストのみ名によって祈ります。　アーメン」